

令和元年度第1回小牧市在宅医療・介護連携推進協議会 議事録

日 時	令和元年7月11日(木) 15時00分～16時10分
場 所	小牧市役所 本庁舎6階 601会議室
出席者	<p><b>【委員】(名簿順・敬称略)</b></p> <p>浅井 真嗣 小牧市医師会 在宅医療推進委員会委員長  磯村 千鶴子 小牧市在宅医療・介護連携サポートセンター  芥川 篤史 医療法人純正会 小牧第一病院院長  小島 英嗣 小牧市民病院副院長兼患者支援センターセンター長  渡邊 紘章 小牧市民病院緩和ケアセンター部長  三谷 敏江 小牧市民病院患者支援センター入退院支援室室長  大野 充敏 小牧市介護支援専門員連絡協議会副会長  伊藤 里美 小牧市介護保険サービス事業者連絡会会長  岡 良伸 小牧市介護保険サービス事業者連絡会訪問看護部会幹事  大橋 弘育 小牧市リハビリテーション連絡会会長  水野 浩平 愛知県春日井保健所次長  田中 秀治 小牧市社会福祉協議会地域福祉課長  小林 永尚 味岡地域包括支援センター  入江 慎介 健康福祉部地域福祉担当次長</p> <p><b>【代理出席】</b></p> <p>山本 将裕 小牧市薬剤師会</p> <p><b>【欠席委員】</b></p> <p>佐々木 成高 小牧市歯科医師会</p> <p><b>【事務局】</b></p> <p>山田 祥之 健康福祉部部長  山本 格史 健康福祉部 長寿・障がい福祉課長  伊藤 京子 健康福祉部 介護保険課長  西島 宏之 健康福祉部 保健センター所長  江口 幸全 健康福祉部 地域包括ケア推進課長  倉知 佐百合 健康福祉部 地域包括ケア推進課地域支援係長  岩下 貴洋 健康福祉部 地域包括ケア推進課地域支援係  長谷川えい子 健康福祉部 地域包括ケア推進課地域支援係</p>
傍聴者	0名
配付資料	<p>次第</p> <p>資料1: 小牧市在宅医療・介護連携推進協議会設置要綱  資料2: 委員名簿  資料3: 地域ケア会議の結果から抽出された地域課題  資料4: こまきつながるくん連絡帳について  資料5: 小牧市 電子@連絡帳サービスオプション 「駐車場シェアシステム」 関連  参考資料1: 各圏域の地域ケア会議 報告書  参考資料2: 在宅医療・介護関連資料</p>

## ○ 主な内容

### 1. 開会

- (1) あいさつ
- (2) 委嘱状の交付
- (3) 新任委員あいさつ
- (4) 会長あいさつ

### 2. 議題

- (1) 地域ケア会議の結果から抽出された地域課題について
  - ・ 資料3を用いて、地域包括ケア推進課 江口課長より説明。
- (2) こまきつながるくん連絡帳について
  - ・ 資料4、5を用いて、地域包括ケア推進課 江口課長より説明。

#### 小林委員)

- ・ こまきつながるくんの登録者数について、小牧の事例ではないが、尾北医師会の圏域で運用されているシステムに関して、その圏域内の医師の方から登録を促され、味岡地域包括支援センターとして、登録したところである。
- ・ 先日開催された地域包括支援センターの管理者会においても、在宅医療・介護連携サポートセンターの職員の方も参加されたので、ご案内をさせていただいたところであるが、医師の先生方の御協力をいただくにあたり、サポートセンターの方にもう少し御尽力いただければ登録件数が増えるのではないかと感じている。

#### 浅井会長)

- ・ それは病院サイドから投げかけがあったということか。

#### 小林委員)

- ・ 連携が必要だということで、尾北からは、主治医の先生の方から登録を促す形になっている。
- ・ 小牧市同様、尾北医師会がサポートセンター事業を運営する中で、サポートセンターとしてチラシを作成し、登録や利用の促進に向けた取り組みを積極的に実施している。
- ・ 現状として、こまきつながるくんでは、医師の先生から登録や利用を促す形にはなっておらず、少しでも医師の先生からもそういった協力があると、登録者数が増えていくのではないかと思う。

#### 浅井会長)

- ・ ありがとうございます。
- ・ 私もその辺のことを、後ほど発言しようと思っていたのだが、何か現時点で、ほかのことも含めて、意見等があるか。

#### 磯村委員)

- ・ 今の話は、尾北医師会のシステムを推進しろということか。

#### 小林委員)

- ・ そうではない。
- ・ こまきつながるくんの登録、利用促進をされてはどうかということである。

#### 浅井会長)

- ・ こまきつながるくんについては、この程度の登録者数ではどうにもならないと思う。
- ・ 病院側というので、小島委員としてはどうか。

#### 小島委員)

- ・ 尾北医師会のシステムは、病院側から依頼があるということだが、正直、こまきつながるくん連絡帳で病院の医師と介護サービスに携わってみえる方の連携をする場合、病院の主治医がこまき

つながるくんをいつも見ることがなかなか難しいというのがある。

- ・ また、病院に何か連絡をされるときには、例えば具合が悪いので受診をさせたいとか、入院が必要ではないかといったような相談は、こまきつながるくんを通すと煩雑になったり、タイムリーにできなくなったりすることがある。
- ・ そのため、こまきつながるくん連絡帳においては、運用を開始する段階で、そういった緊急の連絡等については電話等で直接連絡をいただいたほうがスムーズではないかということで進めている経緯がある。
- ・ 現状として、尾北医師会のシステムで、どのような形で、病院と地域の医療・介護従事者の方が連携をしているのか知りたいところではある。

**浅井会長)**

- ・ そうですね。なかなか全員の医師が病院で全部見るというのは難しいということで、尾北のほうでは何かドクターがそれぞれ見ているとか情報を聞いているか。

**小林委員)**

- ・ 詳しいところまでは、正直把握はしてはいないが、システムの活用促進を医師会が積極的に関わっているということもあり、見やすい環境づくりに努めているのではないかと推測する。

**小島委員)**

- ・ それは、病院なのか。それとも開業医さんがという意味か。

**小林委員)**

- ・ 味岡包括に連絡をいただいたのは、開業医の先生からである。

**小島委員)**

- ・ やはり、病院だと医師が 100 名以上いる。
- ・ 現状、当院として、こまきつながるくんで関わっている患者さんは今までで 5 名であり、私が内容を確認し、もし主治医に伝えなければいけない内容があれば伝えるという形で運用をしている。
- ・ この程度の数であれば管理する医師も代表医師だけで済むということになるが、患者さんが増えてくると難しいかと考える。

**浅井会長)**

- ・ 第一病院ではどうか。

**芥川委員)**

- ・ こまきつながるくんが導入され、当院でも登録はしているが、これまで具体的に患者さんのやりとりをしているケースは残念ながら一例もないというような状況である。
- ・ 医局などで各医師に呼びかけても、あまり参加するというような動きはないのが現状である。

**浅井会長)**

- ・ ありがとうございます。
- ・ 確かに理想は大きな病院がドクターも含めて全面的にやりとりしてやるのが一番だと思うが、そうはいつでも現実はやはり難しい面があり、我々の開業医レベルから、まずはやっつけていかなければならないと思っている。
- ・ そこで、一つ提案させていただきたい。江口課長から説明をお願いしたい。

**事務局：江口課長)**

- ・ 今年度に入り、電子@連絡帳の利用促進をするために、自治体が同意をとって進めているような動きが広まっているとお話もあり、県内自治体等に確認を取ったところではあるが、それほど、広がっていないというのが実情であった。
- ・ しかしながら、利用を促進するため、市としてどのような対応ができるか健康福祉部内で検討をさせていただき、その内容について介護保険課長から説明させていただく。

**事務局：伊藤課長)**

- ・ 本市として、現状では、ケアマネジャーや地域包括支援センターの職員にこまきつながるくんを使った情報共有の説明と同意をとっていただく形で運用をしているところであるが、全てお願いするのは負担であるということで、市民へのファーストコンタクトとして、最初の説明については、市で行うこととしたいと考えている。
- ・ 具体的には、介護保険の申請時に市の窓口において、こまきつながるくんに関する説明をし、同意書を他の配付資料と一緒に配付させていただくこと、ケアマネジャーさんに相談してほしいといった旨の説明をさせていただく。
- ・ その後、認定結果をお送りするのに併せて、同意書を送付させていただくことを考えている。
- ・ ケアマネジャーさんや地域包括支援センターの職員は、連携の必要があると思われるケースについては、同意書を取得し、患者登録をしていただければと思う。
- ・ これらの対応については、準備が整い次第、開始してまいりたいと考えている。

**浅井会長)**

- ・ 小牧市では、基本的に同意書をとるのはケアマネジャーや地域包括支援センターということで運用してきた。
- ・ 今、事務局から説明があったとおり、こまきつながるくんの説明や同意書の件については、市の方で説明をすることになる。
- ・ こうした部分については、ケアマネジャーに通達し、参加率や登録者数を上げられないかと思うがどうか。

**大野副会長)**

- ・ こまきつながるくんの書類が送付されているということであれば、ケアマネジャーから説明がしやすくなると思うし、忘れることはないと思うので、会員には周知していく。

**浅井会長)**

- ・ 同意の取得について、ケアマネジャーや地域包括支援センターがやらなければならないという問題でもないのでも、委員の皆さんの合意が得られれば、例えば、医療機関だとか様々な職種が自らやっていってもいいかなと思うがどうか。

**山本委員)**

- ・ 薬局として、登録者数を増やす方法を考えたのだが、先日、施設に薬をお届けに行った際、ヒヤリハットなどについて、職員全員で共有されていた。
- ・ 例えば、こうした部分は、他でも役立つし、そういうのをこまきつながるくんで共有してもらえれば、薬局の登録数も上がって、生活面に寄り添ったお薬もお渡しができるのではないかと考える。

**浅井会長)**

- ・ 最終的に同意をとるのは、このチームというか医療・介護に携わる方であれば誰でもいいと思っているので、薬局サイドから仕向けて、同意書をとって、進めていければと思う。
- ・ ただ、こうした運用をしていくと何か怪しげな人が入ってくる場合もあるため、その対策としては、皆さんの目でチェックしていかなければならないと考える。
- ・ 反対が無ければ、このような形でやらせていただきたいと思う。
- ・ 先日、多職種連携研修について、急遽、中止になったが、中止連絡は、磯村委員の方で対応したのか。大体どのぐらい時間を要したのか。

**磯村委員)**

- ・ ファックスと電話で対応した。
- ・ 時間としては、昼から夕方まで要した。

**浅井会長)**

- ・ こうした部分についても、こまきつながるくんがあるのだから、本来でいけば、こまきつながるくんに情報を掲載して、これで終わりになる。
- ・ やはり、もっとこまきつながるくんを活用していくというのを大前提で考えると、重要な要件を除き、こういう連絡事項については、こまきつながるくんを通して、実施していく方向にしていけば、事業者の登録数を上げることに繋がると思っている。
- ・ 来年度からは、基本的には、こまきつながるくんでやっていくという形に持っていきたい。今年度の研修などの機会を利用し、案内をしていく必要がある。
- ・ 実際、事業者の登録率が高いということは言えそうか。

**事務局：江口課長)**

- ・ そうですね。
- ・ 多職種連携研修などに参加していただいている事業所については、登録率は高い状況である。

**浅井会長)**

- ・ 大筋の流れとして、こまきつながるくんを使った情報共有と連絡をしていくということとし、また、1日1回は見ようということをご提案したいがどうか。

**田中委員)**

- ・ 今の会長の提案には大賛成で、今ケアマネジャーの会議や研修を企画する小グループで使っているところがあるので、できれば小グループからでも使っていけるといいと思っている。
- ・ ケアマネジャーに聞くと、どうしても登録をするというところのハードルが高いということだったので、先ほど介護保険課から同意書の説明と配布をさせていただいたり、ケアマネだけではなく、様々な主体が同意を得る形になれば、こまきつながるくんの利用が広がるのではないかと考える。
- ・ また、患者さんの情報共有だけではなく、サービス事業所ごとの情報共有であったり、手軽に使えるような、もっとハードルを下げた形の提案はとても良いと感じる。

**浅井会長)**

- ・ 利用者に関わる人全員が登録しなければならないというものでもないと思っている。
- ・ 登録や利用を誘えるところは、誘ったほうがいいと思うが、中には、あそこは誘いにくいけど、あなただったら誘えるのではないかとといったこともあると思う。
- ・ だから、みんな使い慣れていってくれば、もう少し広がっていくかなとは思っているので、特になければ来年ぐらいから、実施していければと思う。
- ・ 駐車場の件はよいか。新しい取り組みを小牧をモデルにということをやってみるのもおもしろいと思っている。
- ・ 実際、駐車場で苦労しているところもあると思う。私自身も困ることもある。
- ・ 個人宅で確保していくのは難しいかと思っているが、企業、開業医などお昼の何もやっていない時間帯は、使ってもよいという場合もあると思う。そういうところを開放したりしていけば、幅が広がってくるかと思う。

**渡邊委員)**

- ・ 参考資料だと施設看取りの市民の数というのが激減しているということである。
- ・ 入居系施設を除いた数字は、在宅医療を受けている市民の数は増えているが、総数だと減っているということは施設での在宅医療を受けている人と看取りの数が減っているということか。
- ・ これはインパクトのある数字で、きちんと分析したほうが、単一の施設の問題なのかとか、どういふ問題があるのかというのを一度分析しないと、その理由がはっきりすれば解決策があるかもしれないし、解決策がないことなのかというところについて分析する予定はあるか。

**事務局：岩下)**

- ・ 平成30年度の調査を実施する中で、一部のクリニックにおいて、平成29年度までの報告に特別

養護老人ホームにおける在宅医療、訪問診療、看取り等も含めて報告していたということが分かった。

- ・ 設問では、特別養護老人ホームは除いていただく形で設定をしており、その関係もあり、大きく減少したような数値になってしまったところである。
- ・ ただ、それを除いても、今、渡邊委員がおっしゃられるように大きな減少があり、その部分については、経年変化を確認する中で分析していきたいと考えている。

**渡邊委員)**

- ・ 特別養護老人ホームでの看取りというのも重要な部分だと思うので、その試算のもとになる数を分けて、両方出した方がやっぱり現実的である。
- ・ 特別養護老人ホームの看取りも今後すごく重要になってくると思うので、両方あったほうが良いのではないか。

(3) その他

**【閉会】**

**【次回会議開催予定】**

- ・ 令和元年10月31日（木）午後3時から 小牧市役所本庁舎6階 601会議室